環境報告書2019

国立大学法人
東京医科歯科大学

目　　次

1．環境方針

学長メッセージ・・・・・・・・・・・・・・２
基本理念・基本方針・・・・・・・・・・・３

2．環境マネジメント

環境配慮の取組の体制・・・・・・・・・・４
環境安全管理体制・・・・・・・・・・・・５
2018年度の主な行事・・・・・・・・・・６

3．大学概要

キャンパス図・・・・・・・・・・・・・・７
学生数・教職員数・・・・・・・・・・・・８
運営組織等・・・・・・・・・・・・・・・９
教育研究組織等・・・・・・・・・・・・・１０

4．環境配慮活動

プッシュプル型換気装置（３台）導入による
ホルムアルデヒド暴露対策
-医学部附属病院-・・・・・・・・・・・・１１
患者さんへの心の癒しの取組み（１）・・１２
患者さんへの心の癒しの取組み（２）・・１３
医学部附属病院７階の環境改善
―図書・休憩スペースの整備―・・・・・１４
学生教育研修としての環境配慮活動・・・１５
大学全体での環境整備・・・・・・・・・１６
施設部の清掃活動等・・・・・・・・・・１７
大学全体でのエコ活動・・・・・・・・・１８
環境安全マニュアルの発行・・・・・・・１９
化学物質リスクアセスメントの実施・・・２０
環境安全の教育・・・・・・・・・・・・２１
排水水質の管理・・・・・・・・・・・・２２
化学物質の適正管理・・・・・・・・・・２３
第一種指定化学物質及び適正管理化学
物質の排出量・・・・・・・・・・・・・２４
環境に関する社会貢献・・・・・・・・・２５

5．キャンパスの環境負荷

環境負荷の全体像・・・・・・・・・・・２６
省エネルギー対策の結果・・・・・・・・２７
省資源・省エネ対策等・・・・・・・・・２８
電力使用量・・・・・・・・・・・・・・２９
ガス使用量・・・・・・・・・・・・・・３０
温室効果ガスの排出量・・・・・・・・・３１
水資源の使用量・・・・・・・・・・・・３２
排水量・・・・・・・・・・・・・・・・３３
グリーン購入・調達の対応結果・・・・・３４
廃棄物処分の結果・・・・・・・・・・・３５
産業廃棄物・・・・・・・・・・・・・・３６
医療廃棄物・・・・・・・・・・・・・・３７
化学物質の廃棄量・・・・・・・・・・・３８

6．目標・計画・実績

2018年度の実績・・・・・・・・・・・・４０
ガイドラインによる項目と頁の一覧・・・４１

7．おわりに

環境報告書の作成に当たって・・・・・・４２
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・４３

1．環境方針

■学長メッセージ

©Shin Yamagishi

吉岡靖之

現代社会は、グローバル化に起因する人間の活動範囲やその規模の著しい拡大に伴って、資源やエネルギーの問題、気候変動や大気汚染などの地球環境問題などに直面しながら、地球と人類に対する様々な脅威に遭遇しています。

本学は、東京都心に立地し大規模で高機能な大学病院及び研究施設を有しているため、上記の問題に加え、お茶の水に残された自然や環境を守る都市環境問題も意識しながら、その対応を考えていく必要があります。また、国際的にはエネルギー資源を継続的に確保しながらCO_2削減を進めることが重要で、これまで以上に省エネルギー対策・環境対策に取り組む必要があります。

本報告書では、病院における患者さんへの心の癒しの取り組みや図書・休憩スペースの整備、化学物質による曝露対策といった環境改善への取り組み事例の紹介、照明器具のLED化、高効率型空調機への更新、エレベーターのインバーター化、その他の変圧器・無停電電源装置・空調機等を効率的なものへの交換など、様々な省エネ対策に取り組んだ効果の指標となる温室効果ガスの排出量を掲載しています。

本学では2019年度より医学部附属病院機能強化棟の新営工事を予定しております。湯島キャンパスや周辺地域の環境保全に対する必要な対応を行い、騒音・振動・水質などの地域に及ぼす負荷を極力小さく抑えるよう環境監視を行っていきます。

また、近年は化学物質に関する規制も厳しくなっており、本学で使用する多種多様な薬品類についても監視を強化する必要があります。そのためにも化学物質管理システムの導入・運用を促進し環境問題に取り組んでいく方針です。

本学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という比類のないミッションを定めています。ここでいう「知」とは知識、技術、自己アイデンティティを、「癒し」とは教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力を指します。この匠を日本国内、そして世界に向けて展開し、本学の将来像とする未来型医療を創出していくとともに、今後も環境に対する学生・教職員の意識を高め、環境に配慮した教育・研究を実践し、環境保全や資源の有効活用と省エネルギー対策に大学として取り組んでまいります。

1．環境方針

■基本理念

地球環境問題等の解決のために、本学における教育、研究、診療などあらゆる活動を通じて、環境保全と環境負荷の低減に努める。特に温室効果ガスの削減を推進する。

■基本方針

1．教職員及び学生と協力して、省エネルギー、省資源、資源のリサイクル、グリーン購入の推進、廃棄物発生量の抑制及び化学物質の安全管理に努める。

2．環境に関する法令、条例及び協定等の遵守はもちろん、環境への取組みを文書、又はホーページを通して関係する教職員及び学生に周知徹底し、基本方針や取組みについて外部に開示する。

2．環境マネジメント

■環境配慮の取組の体制

学　長
〈最高責任者〉

役員会

環境安全管理委員会

本学における化学物質の適切な管理運営に関し必要な事項を審議する。

【委員】

①環境安全管理室長
②環境安全管理室の教員（1名）
③大学院医歯総合研究科の教授又は准教授（3名）
④教養部の教授又は准教授（1名）
⑤各附置研究所の教授又は准教授（各1名）
⑥職員健康管理室の教授又は准教授（1名）

安全衛生委員会

職員の災害防止疾病予防並びに健康増進をはかる安全衛生に関する事項を審議する。

【委員】

①事業の実施を統括管理する者又はこれに準ずる者
②教養部長
③産業医
④職員健康管理室長
⑤衛生管理者（2名）
⑥安全管理者（2名）
⑦衛生に関し経験を有する者（2名）

建築委員会

本学における建築および整備計画等に関すること等を審議する。

【委員】

①学長が指名する役職員
②医歯学総合研究科長
③保健衛生学研究科長
④医学部長
⑤歯学部長
⑥教養部長
⑦生体材料工学研究所長
⑧難治疾患研究所長
⑨医学部附属病院長
⑩歯学部附属病院長
⑪事務局長

■2018年度の主な審議事項

- 化学物質、高圧ガスの管理体制の確立（環境安全管理委員会）
  化学物質管理システム導入について
  爆発物の原料になる化学物質の管理方法について

- 受動喫煙対策について（安全衛生委員会）
  本学敷地内指定喫煙所を全て廃止し敷地内の受動喫煙防止を徹底

- 働き方改革の推進により、学内規則一部改正について（安全衛生委員会）

- 2019年度の保健管理計画について（安全衛生委員会）
  定期健康診断等の実施計画

- 2018年度施設点検評価の実施（建築委員会）
  本学が所有する施設についての実態把握について

2．環境マネジメント

■環境安全管理体制

2．環境マネジメント

■2018年度の主な行事

４月、１０月	特殊（有機溶剤・特定化学物質）健康診断
４月、１０月	放射線業務従事者健康診断
６月	適正管理化学物質、第１種指定化学物質の在庫量等の報告
８月	職員一般定期健康診断、ストレスチェック
１０月	インジウムを使用する者に対する特別健康診断
８月、１月	結核健康診断、じん肺健康診断、特定業務従事者健康診断
週１回	衛生管理者巡視
月１回	産業医巡視
年２回	安全衛生研修会、作業環境測定
年１回	環境安全管理研修会

於：駿河台地区の22号館　　産業医の巡視における薬品管理の確認作業

於：湯島地区の2号館　　作業環境測定の作業

労働安全衛生法等により、「粉じん取扱い業務」、「特定化学物質取扱業務」、「有機溶剤取扱業務」を常時行っている部署につきましては、作業環境測定を実施する必要があります。

各研究室の空気中の「粉じん」、「有機溶剤」、「特定化学物質」のサンプリングを行います。

3．大学概要

■キャンパス図

地　区	住　所	代表連絡先	土地面積	建物面積
湯　島	東京都文京区湯島 １－５－４５	０３－３８１３－６１１１	45,090㎡	249,646㎡
駿河台	東京都千代田区 ２－３－１０	０３－５２８０－８０００	5,597㎡	19,912㎡
国府台	千葉県市川市国府台 ２－８－３０	０４７－３００－７１０３	60,910㎡	14,102㎡

3．大学概要

■学生数（2018年5月1日現在）　3,205名

■教職員数（2018年5月1日現在）　2648名

3．大学概要

■運営組織等

運営組織等
Management Structure

学長
President

役員会 Board of Executive Directors
重要事項を審議 Deliberate on important matters

経営協議会 Administrative Council
主に経営面を審議 Deliberate on management issues

教育研究評議会 Education and Research Council
主に教学面を審議 Deliberate on educational and research issues

統合戦略会議 Strategic Planning Council
学長の企画・立案及び調整を補助するとともに、大学の運営戦略を検討
Deliberate on strategic planning issues with supporting president

大学力向上戦略会議 University Innovation Strategy Meeting
大学改革に関する構想・戦略を検討
Deliberate on university innovation issues

教育戦略会議 Strategic Meeting on Education
教育に関する構想・戦略を検討
Deliberate on educational issues

医療戦略会議 Hospital Administration Strategy Meeting
医療に関する構想・戦略を検討
Deliberate on hospital administration issues

研究戦略会議 Research Strategy Meeting
研究に関する構想・戦略を検討
Deliberate on research strategy issues

管理・運営推進協議会 Management Promotion Meeting
管理・運営に関する構想・戦略を検討
Deliberate on administration and management issues

グローバル化推進委員会
Global Affairs Advancement Steering Committee (GAASC)
グローバル化に関する構想・戦略を検討
Deliberate on globalization issues

情報戦略会議 Information Strategy Meeting
情報に関する構想・戦略を検討
Deliberate on information and security issues

監事
Auditors

監査室
Internal Audit Office

理事 Executive Directors

副理事
Deputy Directors

（理事・副学長） （Executive Director/ Executive Vice President）	企画・大学改革 University Innovation
（理事・副学長） （Executive Director/ Executive Vice President）	教育・学生・歯学部改革担当 Education and Dental Organizational Innovation
（理事・副学長） （Executive Director/ Executive Vice President）	産学官連携・研究展開担当 Innovative Research and Collaboration
（理事・副学長） （Executive Director/ Executive Vice President）	医療担当 Hospital Administration
（理事・副学長・事務局長） （Executive Director/ Executive Vice President/ Director General）	財務・施設・人事担当 Finance ,Facilities and Personnel

副理事
Deputy Directors

（特命副学長） Executive Senior Vice President	教育担当 Education
（特命副学長） Executive Senior Vice President	研究・評価担当 Research, Accreditation and Evaluation
（特命副学長） Executive Senior Vice President	国際担当 Global Affairs
（特命副学長） Executive Senior Vice President	法務・コンプライアンス・地域貢献担当 Legal Affairs and Compliance, Community Relations
（副学長） Vice President	広報担当 Public Relations
（副学長） Vice President	リサーチアドミニストレーター（URA）・業務調査担当 URA and Performance Evaluation
（学長補佐） Advisor to the President	企画・研究情報担当 Research Information

学長特別補佐（学長シンクタンク） Special Advisors to the President
（President’s Advisory Board）

学長戦略企画課 President`s Strategic Policy Section

評価情報室 University Evaluation Office

事務局 Administration Bureau

総務部 General Affairs Division	施設部 Facilities Division	財務部 Financial Division	病院統括部 Hospital Management Division

3．大学概要

■教育研究組織等

教育研究組織等
Education and Research Structure

- 学長President
- 大学院 Graduate schools
  - 医歯学総合研究科 Graduate school of Medical and Dental Sciences
    - 医歯理工学専攻（修士課程） Medical and Dental Science and Technology (Master' s Program)
    - 医歯学系専攻（博士課程） Medical and Dental Sciences (Doctoral Program)
    - 東京医科歯科大学・チリ大学 国際連携医学系専攻（博士課程） University of Chile and TMDU Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences with mention of a medical specialty
    - 東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学 国際連携医学系専攻（博士課程） Tokyo Medical and Dental University and Chulalongkorn University International Joint Degree Doctoral Program in Dental Sciences-Doctor of Philosophy Program in Orthodontics-
    - 生命理工医療科学専攻（博士課程） Biomedical Science and Engineering (Doctoral Program)
  - 保健衛生学研究科 Graduate school of Health Care Sciences
    - 看護先進科学専攻（博士課程） Nursing Innovation Science (Doctoral Program) ※ 2014年度より総合保健看護学専攻から改組
    - 共同災害看護学専攻（博士課程） Cooperative Doctoral Course in Disaster Nursi (Doctoral Program)
- 医学部附属病院 Medical Hospital
- 歯学部附属病院 Dental Hospital
- 医学部 Faculty of Medicine
  - 医学科 School of Medicine
  - 保健衛生学科 School of Health Care Sciences
    - 看護学専攻 Track of Nursing Science
    - 検査技術学専攻 Track of Medical Technology
- 歯学部 Faculty of Dentistry
  - 歯学科 School of Dentistry
  - 口腔保健学科 School of Oral Health Care Sciences
    - 口腔保健衛生学専攻 Track of Oral Health Sciences
    - 口腔保健工学専攻 Track of Oral Health Engineering
- 教養部 College of Liberal Arts and Sciences
- 生体材料研究所 Institute of Biomaterials and Bioengineering
- 難治疾患研究所 Medical Research Institute
- スポーツサイエンス機構 Sports Science Organization
  - スポーツ医歯学診療センター Clinical Center for Sports Medicine and Sports Dentistry
  - スポーツサイエンスセンター Sports Science Center
- 統合大学改革推進機構 Institute of University Innovation Advancement
- 統合情報機構 Institute of Information Technology
  - ITセキュリティ部門 Division of Information Infrastructure and Security
  - 図書館部門 University Library
    - 図書館 国府台分館 Library/Kounodai Branch Library
- 学生支援・保健管理機構 Student Support and Health Administration Organization
- オープンイノベーション機構 Institute of Open Innovation
- 職員健康管理室 Health Administration Office for Employees
- 環境安全管理室 Environmental Safety Office
- 統合研究機構 Institute of Research
  - イノベーション推進本部 Division for Research Innovation
    - 産学連携研究センター Research Center for Industry Alliances
    - 医療イノベーション推進センター Medical Innovation Promotion Center
  - 研究基盤クラスター Research Facility Cluster
    - リサーチコアセンター Research Core
    - 実験動物センター Center for Experimental Animals
    - 生命倫理研究センター Life Science and Bioethics Research Center
    - 疾患バイオリソースセンター Bioresource Research Center
  - 研究力強化イニシアティブ Division of Strategic Research Initiatives
  - 先端医歯工学創成研究部門 Division of Advanced Multidisciplinary Research
    - 再生医療研究センター Center for Stem cell and Regenerative Medicine
    - 脳統合機能研究センター Center for Brain Integration Research
    - 創成医学コンソーシアム Organ and Tissue Neogenesis Consortium
    - 未来医療開発コンソーシアム Medical Innovation Consortium
- 広報部 Public Relations Division
- 統合診療機構 Institute of Integrated Hospital Administration
- 統合国際機構 Institute of Global Affairs
- リサーチ・ユニバーシティ推進機構 Research University Promotion Organization
- 統合教育機構 Institute of Education
- 苦情相談部 University Ombudsman Office
- 高等研究院 TMDU Advanced Research Institude(TMDU-ARIS)

4．環境配慮活動

■プッシュプル型換気装置（３台）導入によるホルムアルデヒド暴露対策
－医学部附属病院－

プッシュプル型換気装置3台連結している。

開放的な作業スペース

病理部では病理検査業務にやむをえず使用している有害物質があります。その一つであるホルムアルデヒドは粘膜や呼吸器への急性傷害作用に加えて長期的には発がん性があることも指摘されており、作業従事者の安全のため使用場所の空気中ホルマリン濃度や廃棄方法などが法令によって厳しく規制されています。

これまで病理部では廃液については全て外部業者に委託して無毒化処理を行っていましたが、空気中に揮発したホルムアルデヒドについては対策が十分ではありませんでした。2017年度に病理部内に設置されたプッシュプル型換気装置はホルマリン使用場所を局所的に効率良く換気することが可能であり、法令で定められた管理濃度0.1ppm以下を確実に維持することが可能になりました。装置が開放型のため作業への支障もありません。今後も労働安全や病院内外の環境に与える影響に配慮し、改善方法を積極的に考え、その実現に努めていきます。

4．環境配慮活動

■患者さんへの心の癒しの取組み(1)
―医学部附属病院で開催される定期演奏会について―

2018年5月25日（金）
於：医学部附属病院　１階ロビー

　医学部附属病院では患者さんへ音楽による癒しを提供するために、Musicamenteの企画制作協力により国内外で活躍する音楽家を招いて、Mezz’ora Concertと題するコンサートを定期的に開催しています。第100回を迎える今回はソプラノとピアノのデュオによる演奏でした。今回もロビーには多くの患者さんたちが集まりました。

4．環境配慮活動

■患者さんへの心の癒しの取組み(2)
―駐車場、病棟屋上緑化の整備について―

於：医学部附属病院８階の屋上

於：立体駐車場の屋上

本学の附属病院では、患者さんが自然に触れて癒されるように、屋上にも植栽しています。特に、春と秋は、長椅子でくつろぐ人達が多くなります。都会の真ん中にありながら、緑や紅葉、季節の花々を鑑賞することができ、心の癒しになる場所です。

４．環境配慮活動

■医学部附属病院７階の環境改善　―図書・休憩スペースの整備―

２０１８年１０月，医学部附属病院の７階を図書・休憩スペースとして新たにオープンしました。

従来の７階は，図書室をはじめ自動販売機を複数台設置していたこともあり，椅子とテーブルを置き休憩コーナーとしていましたが，照明は暗く，老朽による壁や天井，廊下の汚れも相俟って一層の暗さ感じる憩える空間とは言い難い環境でした。

そこで，エレベーター前から自動販売機置き場及び図書室までを開放し，狭隘に見えていた空間を広く感じられるよう改修を行うとともに，高輝度に優れ省エネ対策となるＬＥＤ照明器具の取り替えに合わせ，廊下と天井を塗装し直し，壁は絵柄のある明るい壁紙に張り替えることで７階全体が明るくなり，安心して憩える場所として教職員や患者さん誰もが使えるスペースにリニューアル（環境改善）しました。

４．環境配慮活動

■学生教育研修としての環境配慮活動
―大学構内の清掃活動について―

２０１８年10月12日（金）教職員（２００名）、学生（29名）が参加しました。
於：「知と癒しの庭」での学生による除草作業

本学では毎年１０月１２日の創立記念日に「マイキャンパスプロジェクト」として、学生教職員に呼びかけ、大学構内と周辺道路の清掃を行っています。今回は晴天に恵まれ、参加者全員で約１時間の清掃を行うことができました。

於：国府台地区　正門前

国府台地区においては、地域美化貢献の一環として、学外歩道清掃を毎日実施しています。

４．環境配慮活動

■大学全体での環境整備
―創立記念日行事の清掃活動、ホームカミングデイにおける植樹について―

2018年１０月１２日（金）
於：大学構内および周辺道路

本学では、環境美化活動の一環として、毎年創立記念日に「マイキャンパスプロジェクト」として教職員による大学構内と周辺道路の清掃を行っています。吉澤学長をはじめ多くの役職員（約２００名）がこのプロジェクトのために揃えたＴシャツを着用し、草取りやゴミの除去を行い、環境整備に努めました。

2018年１０月１４日（日）
於：外堀門側

今年で９回目となるホームカミングデイを開催し、湯島キャンパスに緑を増やすための「癒しの緑づくりプロジェクト」として、卒後50年を迎える第１６期生同期会から寄贈されたソメイヨシノ2本を第１６期生とともに植樹しました。

４．環境配慮活動

■施設部の清掃活動

２０１８年度も大学の愛校精神による屋外環境整備を施設部施設企画課、施設管理課にて実施しました。春夏は除草作業、秋冬は落ち葉清掃等を中心に行い、計１２回活動しました。

活動範囲：知と癒しの庭、医科棟前スロープ及び階段、学内外歩道部分等

【その他の活動】
本学のシンボル的な樹木メタセコイヤ（記念樹）の苗木を育てています。

■湯島団地放置自転車の撤去・対策

湯島団地内に駐輪している自転車・自動二輪車について、２０１８年度も駐輪場パトロールを施設管理課で実施しました。その結果、駐輪してある自転車等の中には長期にわたって放置されているものや、部外者が通勤通学等で利用しているものが多数あることが確認できました。放置自転車等を除去するために駐輪場の全ての自転車等に張り紙を貼り、一定期間周知後に分別し撤去を実施しました。

【2018年度　放置自転車等の分別・撤去実績】
自転車　　：（湯島団地）８２台
　　（国府台団地）　０台
自動二輪車：（湯島団地）　６台
　　（国府台団地）　０台

湯島団地放置自転車の分別

4．環境配慮活動

■大学全体でのエコ活動
―省エネルギー及び温室効果ガス排出削減対策―

夏の節電のポスター

冬の節電のポスター

地球温暖化対策として、これまで湯島団地では、一部建物の窓に遮熱塗料の塗装及び断熱フィルム貼りを実施したり、窓ガラスを複層ガラスに変更しています。これにより、夏季の空調負荷が低減され、電気使用量削減になっています。さらに、2018年度から個別施設計画に伴い、既存照明器具取替(LDE化) など省エネ改修を実施しています。

国府台団地では、学生実習室等のエアコンを省エネタイプの機器に順次更新しています。

更に、事務室においては、夏季は軽装期間を設け、エアコンの冷房設定温度の目標を28℃、冬季においては暖房設定温度の目標を19℃とするポスターを掲示することや省エネアナウンスを引き続き行っています。また、学内ＨＰに電力使用量がリアルタイムで表示されるページを作成するなど、学内周知を行ない、一年を通し消費電力の削減に取り組んでいます。

電力使用量をリアルタイムで表示する学内ホームページの画面

4．環境配慮活動

■環境安全マニュアルの発行

2016年度から、環境安全マニュアルを配布し、化学物質の管理や高圧ガスの管理、実験廃液の処理、化学物質の廃棄の手続き等が記載されマニュアルを基に運用されています。

【主な内容】

1．化学物質管理について
2．高圧ガス管理について
3．実験廃液処理・化学物質の廃棄について
4．応急措置および緊急対応について
5．関係法令および学内規則について

化学物質管理について

◎ 化学物質の発注または受け入れ P.10

(1) 発注する化学物質の情報を**物品等請求Webシステムへ入力**
- 「連絡事項」または「備考」欄に、「**ES@**」と入力する。
- 毒物、劇物に該当する化学物質では「**ES@CAS番号**」を入力する。
- その他の手順は「WEBシステムへの入力手順」に従う。

(2) 発注せずに化学物質を受け入れる場合は、環境安全管理室ホームページ（下記）から**化学物質管理簿**をダウンロードし、毎月末に環境安全管理室へ電子メール（下記）で送付する。

◎ 化学物質の保管 P.11

(1) 保管庫の固定等による転倒防止措置をとる。
(2) 混合すると危険な化学物質を隣接させないように配置する。
(3) 法令により管理が必要な化学物質は、下表に従って適切に保管する。

毒物・劇物	施錠可能な保管庫に他の化学物質と区別して保管する。保管庫に“**医薬用外毒物**”“**医薬用外劇物**”と表示する。
特定毒物 麻薬・向精神薬 覚せい剤・覚せい剤原料	保管、使用、廃棄には公的な資格が必要であり、厳格な法規が適用される。詳細は環境安全管理室までお問い合わせください。

◎ 化学物質の使用 P.12～14

(1) SDS（安全データシート）を入手する。
(2) **化学物質管理簿**を更新する。
- 環境安全管理室から年に数回送付される化学物質管理簿に使用状況を入力し、環境安全管理室へ電子メール（下記）で返信する。

★化学物質管理簿
発注時に入力した化学物質の情報および該当する法規が記入してある。
各分野で使用終了日等を入力し、化学物質の在庫状況を環境安全管理室に報告できるようにする。

(3) **毒物劇物管理簿**を作成する。

★毒物劇物管理簿
毒物、劇物の容器毎に作成し、使用前後の容器を含めた重量を記録する。

(4) 不要となった化学物質は廃棄する。

問い合わせ先：kankyo.adm@tmd.ac.jp（TEL：03-5803-5917）
ホームページ：https://www1.tmd.ac.jp/others/kankyou_anzen/index.html

実験廃液の分別早見表

フローに従って分類できない実験廃液は、環境安全管理室に問い合わせて下さい。

問い合わせ先：kankyo.adm@tmd.ac.jp（TEL：03-5803-5917）
ホームページ：https://www1.tmd.ac.jp/others/kankyou_anzen/index.html

４．環境配慮活動

■化学物質リスクアセスメントの実施

労働安全衛生法の改正に伴い２０１６年６月１日から義務化された化学物質等による危険性又は有害性等の調査等（化学物質リスクアセスメント）について、本学では、「国立大学法人東京医科歯科大学化学物質等のリスクアセスメント実施要領」を制定し学内に周知しその徹底を図っています。

本調査の実施結果については、３か月ごとに各分野の実施者から環境安全管理室に報告を行い、その内容に応じて適正な措置が講じられているかを確認し、必要があれば適正な措置を講じるよう指導しています。

また、従事する職員へのリスクに関する情報を通知する他、大学ホームページに掲載しています。

	リスク低減措置
リスクレベル1	現在の管理の継続的維持に努める。
リスクレベル2～4	局所排気装置等を使用する。
リスクレベルＳがある場合	保護具の着用をする。

4．環境配慮活動

■環境安全の教育

環境安全管理研修会

研修会　　7月17日
ＤＶＤ研修会　7月31日、8月6日
参加人数　１49名（研修会）、 37名（ＤＶＤ研修会）
講義内容　環境安全マニュアルについて、化学物質管理、高圧ガス管理、実験廃液の処理等
講師　　生体材料工学研究所　平野智也准教授（環境安全管理室員）

安全衛生に関する研修会

日時　　10月4日
参加人数　90名
講義内容　安全衛生　「基本のキ」
講師　　再生医療研究センター 助教／労働衛生コンサルタント　片野尚子先生

4．環境配慮活動

■排水水質の管理

湯島・駿河台・国府台地区では、毎月１回の排水水質分析検査を実施しています。その結果、下表のとおり、全窒素および鉛等の項目で規制値を超過しました。再検査で規制値内を確認し、アンケート調査を行い、取扱い方法に問題が無かったことを確認しました。また、今後の対応について書面による注意喚起と啓発ポスターの掲示を行いました。

今後は、化学物質管理の研修により化学物質の漏洩を未然に防止するとともに、規制値超過の情報を蓄積し、啓発活動に活用していきます。

湯島地区	全窒素（１か所の桝から１回）、水素イオン濃度（1か所の桝から2回） ノルマルヘキサン抽出物質（１か所の桝から１回）
駿河台地区	鉛（１か所の桝から１回）全窒素（１か所の桝から１回）
国府台地区	全窒素（１か所の桝から3回）

於：湯島地区
排水水質分析検査の排水の採取状況（2018年6月、12月）

2018年度も例年どおり、以下の環境に関係する法規を遵守しました。

- 省エネルギー法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物特別措置法
- 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）
- 建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）
- 労働安全衛生法
- 高圧ガス保安法
- 毒物及び劇物取締法
- 消防法　等

化学物質の管理に係る法規

- 下水道法
- グリーン購入法
- 東京都環境確保条例
- 千葉県環境基本条例
- 千葉県環境保全条例

4．環境配慮活動

■化学物質の適正管理

本学では、教育・研究・医療活動の中で、多種多様な化学物質を取り扱っています。
しかし、化学物質は有益であると同時に私たちや他の生態系に悪影響を及ぼす有害性を持っています。
化学物質を取り扱うためには、環境の保全・健康被害の防止・危険性の防止の３つの観点から定められた様々な法規遵守し、化学物質に関する一連のプロセス（入手、保管、使用、廃棄）を一連の流れで進める必要があります。
管理については、環境安全マニュアルを作成し、各分野における化学物資の受入、在庫、廃棄に係る適正な管理を周知徹底しています。
また、研究室に環境安全管理担当者、毒物劇物等管理担当者、廃液等管理指導者を選任し、化学物質管理体制を強化しました。
さらに、化学物質を保管または使用する各研究室等の環境安全管理の巡視を実施し、化学物質の危険性・有害性のリスク低減を図りました。
化学物質を安全に取り扱い、化学物質による健康障害を防止するため、各研究室にＳＤＳ（安全データシート）、安全の手引きを整備し、特殊健康診断、作業環境測定等を実施しております。

化学物質に関する一連のプロセス（入手、保管、使用、廃棄）

化学物質を含む特別管理産業廃棄物を学内で集積し、廃掃法に定められた保管基準に基づく適正な管理を行い、産業廃棄物処理場にて処分をしています。

於：湯島地区
特別管理産業廃棄物保管場所

4．環境配慮活動

■第一種指定化学物質及び適正管理化学物質の排出量

本学では、化学物質の環境への影響を考慮し、ＰＲＴＲ制度（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）及び東京都環境確保条例（都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）等に基づき、法令等で定められた化学物質の適正な管理に努めています。

ＰＲＴＲ制度の第一種指定化学物質462物質及び東京都環境確保条例の適正管理化学物質58物質を対象に、大学での取扱量がＰＲＴＲ制度で年1t以上、東京都環境確保条例で年間100kg以上の物質について、使用量等の報告義務が課されており、国及び東京都に対して報告しています。

第1種指定化学物質の排出量（ＰＲＴＲ制度）

化学物質	クロロホルム	ジクロロメタン	合計
事業場区分	湯島・駿河台・国府台地区		
使用量（kg）	1,500	1,100	2,600
廃棄量（kg）	1,200	990	2,190
差分（kg）	250	35	280
排出量合計（kg）	550	150	700

適正管理化学物質の排出量（都条例対象物質）

化学物質	アセトン	キシレン	クロロホルム	酢酸エチル	ジクロロメタン	ヘキサン	ホルムアルデヒド	メタノール	合計
事業場区分	湯島地区								
使用量（kg）	84	640	610	29	31	12	320	890	2,600
廃棄量（kg）	12	580	580	3	0	0	180	690	2,100
差分（kg）	55	0	0	26	31	11	130	80	330
排出量（kg）	128	60	30	52	62	23	270	280	900
事業場区分	駿河台地区								
使用量（kg）	1,300	15	930	960	1,100	830	1	680	5,800
廃棄量（kg）	1,200	15	650	840	990	750	0	540	5,000
差分（kg）	0	0	240	83	0	45	1	130	500
排出量（kg）	55	0	38	37	69	40	0	14	250
排出量合計（kg）	100	1	520	203	110	125	2	270	1,300

4．環境配慮活動

■環境に関する社会貢献

■環境省総合環境政策局等での活動

本学から２名が環境省総合環境政策局等で活動し、環境問題に対して積極的に社会貢献を行っています。

・大学院医歯学総合研究科　河原　和夫　教授
　環境省総合環境政策局
　　「疫学研究に関する審査検討会」委員
・学生支援・保健管理機構　宮﨑　泰成　教授
　東京労働局　地方じん肺診査医

■環境パトロール

駿河台団地では、御茶ノ水駅周辺地区生活環境美化・浄化推進連絡会会員として月2回の環境合同パトロールに協力している他、千代田区生活環境条例に定める年2回の一斉清掃日には、構内周辺の清掃を町内会とともに行っています。

（参考）合同パトロールの内容
・参加者：地区連絡会会員、千代田区、
　　警察署
・内　容：①放置自転車・バイクへの札貼り、
　　違法駐車バイクのナンバー記録
　　②放置看板・のぼり旗撤去指導及び
　　警告札貼付け(放置物件の記録)
　　③路上喫煙者指導、違法駐車指導

■歩行喫煙者等の禁止に関する啓発事業への協力

湯島団地では、2007年度より、湯島・本郷地区の町会等が立ち上げた「湯島・本郷地区路上喫煙禁止を推進する準備会」の趣旨に賛同し、準備会に加わり、定期的に会合にも参加して路上喫煙禁止の運動に携わってきました。
2009年4月に、「文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例」が施行されたことに伴い、本学は条例の趣旨に賛同し、毎年条例の周知・啓発キャンペーンに協力しています。2018年度も歩行喫煙等の禁止に関する啓発事業に職員が計５回参加しました。

5．キャンパスの環境負荷

■環境負荷の全体像

2018年度の資源の流入と外部への排出は下記のようになりました。

INPUT

エネルギー使用量

購入電力　51,489 千kWh
都市ガス　3,123 千㎥

水資源使用量

上水　109,023 ㎥
井水　185,739 ㎥

使 用 物 質

医療用機材
化学物質
生物

OUTPUT

大気排出量

温室効果ガス
30,546 t-CO_2

排 水 量

下水　311,315 ㎥

廃棄物排出量

一般廃棄物　2,961 t
産業廃棄物　2,237 t
医療廃棄物　634 t
廃液等　26 t

教　育

研　究

臨　床

5．キャンパスの環境負荷

■省エネルギー対策の結果

研究・実験による実験機器の導入や診療患者数が増加する中、高効率の各種建築設備機器の導入を進めています。

■総エネルギー投入量

	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比（%）
総エネルギー熱量（千GJ）	665	656	653	635	632	△ 0.5
原単位（kl/㎡）	0.0583	0.0574	0.0572	0.0556	0.0553	△ 0.5

原単位とは、建物延べ床面積当たりのエネルギー量を表しています。

総エネルギーは省エネ活動および省エネ対策工事などにより、年々減少傾向にあります。2018年度は夏場の猛暑の影響もありましたが、11月から新たに医科棟の省エネ支援業務を開始したことにより、0.5%のエネルギーが削減しました。

省エネルギーの達成度を検証した結果、2010年度比で約24.2%のエネルギー削減となっています。

2018年度省エネ対策工事
◆共有部分（階段室等）照明器具の更新工事【左：更新前、右：更新(LED化)後】

5．キャンパスの環境負荷

■省資源・省エネ対策
―大学全体でのエコ活動―

本学では、財務部財務企画課が中心となって、全学的取組として「TMDU経費節減アクションプラン」を２０１５年１０月に策定し、課内において実践するとともに、学内へ周知しています。

【全学の取組み】
①モノクロ・両面印刷
②空調の適切な温度設定
③休憩時間の消灯
④夜間休日のエレベーター停止
⑤備品の再利用の呼びかけ
⑥使用頻度の少ない物品は他課と共用

東京医科歯科大学

TMDU 経費節減アクションプラン
～特に実行すべき3つの事項～

① モノクロ・両面印刷の徹底 ≪そのカラープリント、白黒じゃダメですか？≫
- カラーコピーをモノクロ（白黒）コピーにすれば、1枚につき約10円の節減効果
  大学全体で約1億円の削減効果（H26実績　カラーコピー 約1，000万枚、約1．3億円）
- 片面印刷を両面印刷にすれば、用紙代が1/2、2UP集約印刷にすれば、さらに1/2

② 光熱水量の節約 ≪皆さんの気配り、目配りだけで確実に効果が出せる！≫
- 不要な場所を消灯すれば、3%の節電効果
- 空調の設定温度（夏　26℃→28℃、冬　22℃→19℃）を徹底すれば、4%の節電効果
- 長時間離席時に画面の電源OFF、スタンバイモードを徹底することで、3%の節電効果
  使用量を計10%削減すれば、大学全体で約1億円の削減効果（H26実績　電気料金 約10．7億円）

③ 備品の再利用や共用化の徹底
≪捨てる前のその備品、必要な人がいるのでは？≫

上記の取組状況に関するフォローアップの実施

※上記は取組の一例です。上記に限らず、各自、実行可能な事項は積極的に取組みましょう。

TMDU経費節減アクションプランのポスター

■井水利用
―大学全体でのエコ活動―

2009年度に地震等の災害時にも病院機能を充分に発揮できるよう自前で水源を確保するとともに、経費削減を目的として井水利用の検討をし、1968年に設置され休止状態にあった井戸を再利用することとなりました。

2010年度に既設井戸の補修工事や、民間企業と井水浄化供給業務を契約し、2011年4月より井水の利用を開始しています。井水は東京都水道水と併せ飲料水として使用していますが、災害時には、特定機能病院・三次救急病院としての機能を発揮できるだけではなく、公的ライフライン復旧までの給水拠点として、地域住民に貢献することが出来ます。

2018年度においては、湯島団地の水資源使用量の約63%が井水によってまかなわれています。

	2010	2014	2015	2016	2017	2018	2010年度比（%）	前年度比（%）
井水量(㎥)	0	171,881	181,082	176,153	176,911	185,739	-	5.0%
上水量(㎥)	410,721	121,938	117,403	115,249	106,114	109,023	△ 73.5%	2.7%
水使用量(㎥)	410,721	293,819	298,485	291,402	283,025	294,762	△ 28.2%	4.1%

5．キャンパスの環境負荷

■電力使用量

（千kWh）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比（%）
全団地の合計	52,365	52,792	52,194	50,973	51,489	1.01
湯島団地	49,349	49,800	49,311	48,080	48,735	1.36
駿河台(1) 団地	65	64	45	29	28	△ 3.45
駿河台(2) 団地	2,396	2,392	2,288	2,280	2,184	△ 4.21
国府台団地	555	536	550	584	542	△ 7.19

2018年度の上記４団地電力使用量については、震災前であった2010年度に比べると7.6%の削減になっていますが、前年度に比べ、1.0%の電力使用量が増加しました。
今後も、電力使用量の低減に努めます。

於：湯島地区
電力使用量のモニタリングを行っています。

5．キャンパスの環境負荷

■ガス使用量

（千㎥）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比（%）
全団地の合計	3,695	3,350	3,444	3,295	3,123	△ 5.2
湯島団地	3,694	3,349	3,443	3,294	3,122	△ 5.2
駿河台(2) 団地	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.0
国府台団地	1.0	1.2	0.9	0.6	0.4	△ 33.3

2018年度の上記４団地ガス使用量については、震災前であった2010年度に比べ、設備の高効率化や中央空調のエコチューニング等により、52.8%削減しています。今後も引き続き削減に努めます。

5．キャンパスの環境負荷

■温室効果ガスの排出量

(t)		2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	前年度比(%)
湯島団地のCO_2排出量	第一計画期間 (第二計画期間換算)	34,367 (39,757)	30,996 (35,886)	26,692 (31,675)	26,854 (31,965)	26,936 (32,098)	第二計画期間	31,557	31,518	30,587	30,546	△0.13

※第一計画期間と第二計画期間の温室効果ガスの排出量は、「東京都地球温暖化対策指針」に基づき、算出しています。

2012年度は、東京都環境確保条例に対応した地球温暖化対策計画書に基づき、省エネ対策工事として、医科棟の吸収式冷凍機の更新工事、5号館のエレベーターのインバーター化、既設照明器具の高効率化、既設変圧器・無停電電源装置・空調機を効率的なものへの取替を実施したことにより、温室効果ガスの排出量を大幅に削減しました。

2013年度および2014年度は、医科A棟ボイラー設備の更新を行い、2015・2016年度の医科棟のユニット形空気調和機の更新、2016年度は8号館南の空調機更新、2017·2018年度は電気室の変圧器を高効率化及び、老朽化した照明器具をLED型に更新したことにより、温室効果ガスの排出量を継続的に削減しています。

2018年度省エネ対策工事
◆電気室の変圧器の更新工事（左：改修前、右：改修後）

5．キャンパスの環境負荷

■水資源の使用量

（㎥）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比（%）
全団地の合計	306,910	316,974	308,592	300,387	318,157	5.9
湯島団地	293,819	298,485	291,402	283,025	294,762	4.1
駿河台(1) 団地	404	819	239	14	0	△ 100.0
駿河台(2) 団地	6,249	7,045	6,326	6,593	7,824	18.7
国府台団地	9,577	12,041	10,625	10,755	15,571	44.8

2012・2013年度に医科棟において中央冷熱源設備を改修し高効率化したことにより、水の使用量が減っていると考えられます。

2018年度の水使用量は夏場の猛暑の影響もあり前年度に比べ、全体で5.9%増加しました。今後も、節水に努めるとともに、引き続き設備としても水の使用量を削減できるようにします。

井戸水を利用した地下水膜ろ過システム

湯島キャンパスには1968（昭和43）年に井戸が設置されていました。2011年度にその井戸の補修工事を行い、井戸水を飲料水として使用するために民間企業と井水浄化供給業務を契約しました。

災害時の給水確保も含め、安定した水資源確保を目的としています。

5．キャンパスの環境負荷

■排水量

（㎥）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比（%）
全団地の合計	311,071	317,827	315,291	302,091	311,315	3.1
湯島団地	298,052	299,423	298,079	284,259	288,053	1.3
駿河台(1) 団地	404	819	239	14	0	△ 100.0
駿河台(2) 団地	6,249	7,045	6,326	6,593	7,824	18.7
国府台団地	11,939	10,540	10,647	11,225	15,438	37.5

5．キャンパスの環境負荷

■グリーン購入・調達の対応結果

本学では、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）を遵守し、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進めるとともに、毎年その状況の実績を、環境省に報告しています。

■特定調達品目達成率

	総調達量	総調達量	特定調達物品等の調達率%
紙類	174,190kg	174,190kg	100
文具類	376,053個	376,053個	100
オフィス家具等	1,275台	1,275台	100
画像機器等	8,903台	8,903台	100
電子計算機等	6,460台	6,460台	100
オフィス機器等	51,353台	51,353台	100
家電製品	73台	73台	100
エアコンディショナー等	6台	6台	100
照明	8,216本	8,216本	100
制服・作業服	359着	355着	99
インテリア・寝装寝具	462枚	454枚	98
作業手袋	1,360組	1,360組	100
その他繊維製品	55枚	55枚	100
災害備蓄用品	240個	240個	100
役務	2,029件	2,029件	100

１．調達実績の概要の内容

- 調達方針において、調達総量に対する基準を満足する物品等の調達量の割合により目標設定を行う品目については、全て１００％を目標としていたところですが、物品等の調達実績で９９．９％の調達実績となりました。
- 環境物品等の調達の推進に当たって、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとし、環境物品等の判断基準を超える高い水準の物品等を調達すること、エコマーク等が表示され、環境保全に配慮されている物品を調達することについて配慮しました。
- 物品等を納品する事業者、役務の提供事業者に対して事業者自身が、環境物品等の調達を推進するように働きかけました。

２．当該年度調達実績に関する評価

環境保全に配慮されている物品を調達すること、物品等を納品する事業者に対して事業者自身が環境物品等の調達を推進するように働きかけた結果、インテリア・寝装寝具については調達率が９８％でしたが、ほとんどの特定調達品目が１００％でした。

２０１９年度以降の調達においても引き続き環境物品等の調達の推進を図り、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとします。

5．キャンパスの環境負荷

■廃棄物処分の結果
一般廃棄物

（t）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比 %
全地区の合計	3,479	3,489	3,378	3,216	2,961	△ 7.9
湯島	3,436	3,446	3,341	3,174	2,923	△ 7.9
駿河台(1)	7.5	6.9	5.7	5.7	5.3	△ 7.0
駿河台(2)	28	29	24	29	26	△ 9.3
国府台	7.0	6.7	6.9	7.0	6.4	△ 8.6

2018年度は全地区で前年度より減少しております。分別方法について、掲示物で分別方法を周知する等により分別し、リサイクルの向上に努めます。

廃棄物の分別回収（左：５号館、右：医学部付属病院）

5．キャンパスの環境負荷

■産業廃棄物

（ｔ）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比 %
全地区の合計	1,982	1,720	1,737	2,021	2,237	11
湯島	1,943	1,696	1,655	1,936	2,147	11
駿河台(1)	1.4	1.3	1.1	0.8	0.8	0
駿河台(2)	37	23	81	83.7	89.1	6
国府台	1	1	0	0.4	0.4	0

産業廃棄物は、震災前2010年度に比べると減少傾向でありますが、2016年度、駿河台地区（2）において湯島地区へ研究室の移動があり、それに伴う廃棄量が増加していると考えられます。今後も分別とリサイクルの向上に努めます。

於：湯島地区の集積所（左：リサイクル品の集積所、右：産業廃棄物の集積所）

5．キャンパスの環境負荷

■医療廃棄物

（ｔ）	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比 %
全地区の合計	578.0	580.4	595.8	618.1	633.9	2.6
湯島	568.8	571.9	587.8	609.1	625.6	2.7
駿河台(2)	9.2	8.4	7.9	8.9	8.3	△ 6.7
国府台	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0

医療廃棄物とは、「医療関係機関等の医療行為に伴って排出される廃棄物」の通称であり、正しくは「感染性廃棄物」と呼称し、「感染性廃棄物（医療廃棄物）」、「非感染性廃棄物（産業廃棄物）」及び「事業系一般廃棄物」に分別し排出されています。

本学で発生した医療廃棄物は、業務従事者が所定の専用容器に投棄し、医療廃棄物専用の保管場所に収集し、委託業者により定期的に処分しています。

医学部附属病院では、病院職員の感染防止、針刺し防止等の安全性確保のため、医療廃棄物収集箱を鋭利物・非鋭利物・針ボックスに分別し収集を行っています。また、医学部附属病院及び歯学部附属病院では、新入職員研修時のオリエンテーション等により、医療廃棄物の分別を厳密に行うよう、啓発に努めています。

湯島地区及び駿河台地区では、2011年度から2016年度にかけて医療や研究の活動が活発化したことにより医療廃棄物が増加しました。また、2017年度は、医学部附属病院での感染防止の活動のため増加したと考えられます。

於：湯島地区の特別管理産業廃棄物保管場所（医療廃棄物保管場所）

5．キャンパスの環境負荷

■化学物質の廃棄量

各研究室から排出される実験系廃棄物である廃液等については、原則毎月１回、排出量が多い場合は随時回収し、専門業者に処分を依頼しています。
下表は、廃液の処分量を産業廃棄物のマニフェスト伝票の項目に沿って記載しています。

	2014	2015	2016	2017	2018	前年度比 %
廃液・廃棄薬品の合計（kg）	23,888	26,426	27,603	26,522	26,445	△0.3

■湯島地区

湯島地区	2014	2015	2016	2017	2018
汚泥(kg)	261.3	160.0	270.5	106.9	237.6
廃油(kg)	596.8	706.9	1,359	1627	1692
廃アルカリ(kg)	847.5	622.6	1,463	532.8	1660
廃酸(kg)	7,428	7,196	7,290	5,680	7051
引火性廃油(kg)	3,432	3,465	4,483	3,727	3833
強酸(kg)	0.0	0.0	0.0	16.9	3
廃油(有害)(kg)	0.0	0.0	14.0	26.3	0.0
廃アルカリ(有害)(kg)	0.0	2.3	0.0	4	0.0
廃酸(有害)(kg)	2.5	22.5	4.0	15	5.2
汚泥(有害)(kg)	14.9	5.6	6.9	1.6	3.2
廃液等の合計(kg)	12,582.2	12,181.2	14,890.4	11,737.5	14485

5．キャンパスの環境負荷

■化学物質の廃棄量

■駿河台地区

駿河台地区	2014	2015	2016	2017	2018
汚泥(kg)	22.8	92.9	133.3	141.8	104.4
廃油(kg)	499.3	650.8	828.3	931.4	809.2
廃アルカリ(kg)	42.9	97.2	22.0	29	60
廃酸(kg)	181.3	555.0	28.0	128.5	330.5
引火性廃油(kg)	5,463	7,721	6,956	8,437	6818
強アルカリ(kg)	64.4	0.0	54.0	0	0
強酸(kg)	181.3	0.0	184.6	226	18
廃油(有害)(kg)	4,191	4,248	3,838	4,070	3209
廃アルカリ(有害)(kg)	45.2	57.6	43.4	215	54
廃酸(有害)(kg)	12.5	12.5	1.5	12.5	0
強酸(有害)(kg)	0	0	0	13.5	7.3
汚泥(有害)(kg)	8.7	13.0	3.2	1.0	0.6
廃液等の合計(kg)	10,712.6	13,448.5	12,092.4	14,205.7	11411.0

駿河台地区および国府台地区は、研究活動が活発化していることにより、廃棄物全体の量が増加したと考えられます。

2015年度より、廃液等の分類を定め、危険性・有害性から廃液を分別しています。環境安全管理室では、安全・適正に処理されるよう、排出者への分別・処理方法に関する問い合わせに対応し、産業廃棄物処理業者への情報提供を行っています。

■国府台地区

国府台地区	2014	2015	2016	2017	2018
汚泥(kg)	0.0	123.4	0.0	2.5	0.0
廃油(kg)	160.0	220.0	0.0	240	240
廃酸(kg)	175.0	150.0	120.0	140.0	120.0
引火性廃油(kg)	108.0	18.0	320.0	40	65
廃油(有害)(kg)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
廃酸(有害)(kg)	150.0	275.0	180.0	140.0	120.0
汚泥(有害)(kg)	0.0	9.5	0.0	15.5	2.5
廃液等の合計(kg)	593.0	795.9	620.0	578.0	548.5

6．目標・計画・実績

■2018年度の実績

目　　標	実　施　計　画	実　績
電気使用量の削減	電力使用量の可視化	○
	学内周知による節電の励行	○
	学内周知による冷暖房の適温設定	○
	ユニット形空気調和機・送排風機等のファンベルトを省エネタイプに更新	○
	照明器具をLED型に更新	○
	空調機等を高効率型に更新	○
都市ガス使用量の削減	ボイラ等の空気比の適正管理	○
	蒸気式冷凍機を電気式高効率型に更新	○
上水使用量の削減	自動水栓への改修	○
温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガスの総基準排出量の把握等	○
一般廃棄物の法律遵守	分別回収の徹底	○
産業廃棄物の法律遵守	分別回収の徹底	○
医療廃棄物の法律遵守	適正管理の徹底	○
実験廃液の排出基準の遵守	実験廃液の回収を徹底	○
環境に関連する法律遵守	労働安全衛生法に係る化学物質の管理	○
	PRTR制度による量の把握	○
	作業環境測定による把握等	○
	排水の水質検査等	○
	環境負荷の低減に係る製品購入等	○
環境教育・環境配慮の研究	大学院生の環境安全研修の実施	○
	環境安全マニュアルの作成、配布	○
	心と精神に良い環境の整備	○

※○：実施済

6．目標・計画・実績

■ガイドラインによる項目と頁の一覧

環境報告書ガイドライン（2018年版）による項目

	記載状況	環境報告書の対応ページ
第１章　環境報告の基礎情報		
１．環境報告の基本的要件		
①報告対象組織	○	7～10、41
②報告対象期間		41
③基準・ガイドライン等		3、41
④環境報告の全体像		-
２．主な実績評価指標の推移		
主な実績評価指標の推移	○	26～38
第２章　環境報告の記載事項		
１．経営者のコミットメント		
①重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	○	2
２．ガバナンス		
①事業者のガバナンス体制	○	9、10
②重要な環境課題の管理責任者		4
③重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割		4
３．ステークホルダーエンゲージメントの状況		
①ステークホルダーへの対応方針	―	―
②実施したステークホルダーエンゲージメントの概要		―
４．リスクマネジメント		
①リスクの特定、評価及び対応方法	○	5、6
②上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け		5、6
５．ビジネスモデル		
①事業者のビジネスモデル	○	4
６．バリューチェーンマネジメント		
①バリューチェーンの概要	○	―
②グリーン調達の方針、目標・実績		33
③環境配慮製品・サービスの状況		11～24
７．長期ビジョン		
①長期ビジョン	○	27、39
②長期ビジョンの設定期間		―
③その期間を選択した理由		―
８．戦略		
①持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	○	39
９．重要な環境課題の特定方法		
①事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	○	―
②特定した重要な環境課題のリスト		39
③特定した環境課題を重要であると判断した理由		3
④重要な環境課題のバウンダリー		25
１０．事業者の重要な環境課題		
①取組み方針・行動計画	○	3、39
②実績評価指標による取組目標と取組実績		26～38
③実績評価指標の算定方法		―
④実績評価指標の集計範囲		25
⑤リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法		―
⑥報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書		―

7．おわりに

■環境報告書の作成に当たって

環境報告書2019は、本学環境安全管理室で編集致しました。これまでの環境に関わる統計に加えて、2016年度より義務化された「化学物質等による危険性又は有害性等の調査」を行い、その結果をホームページにて公表しております。

環境報告書2019をご一読いただき、東京医科歯科大学の環境への取組みについてご理解いただけますと幸いです。

【環境安全管理委員会委員】

生体材料工学研究所	教授	塙　隆夫
医歯学総合研究科	教授	中島友紀
医歯学総合研究科	教授	藤井靖久
医歯学総合研究科	教授	宇尾基弘
医歯学総合研究科	准教授	西尾美和子
教養部	教授	奈良雅之
生体材料工学研究所	教授	細谷孝充
難治疾患研究所	教授	伊藤暢聡
職員健康管理室	教授	宮﨑泰成

【環境安全管理室教員】

生体材料工学研究所	教授	塙　隆夫
医歯学総合研究科	教授	北川昌伸
医歯学総合研究科	教授	中島友紀
医歯学総合研究科	准教授	鈴木喜晴
生体材料工学研究所	准教授	田村篤志
難治疾患研究所	教授	仁科博史

７．おわりに

■編集後記

医学部附属病院前のメタセコイアは，１９５６（昭和３１）年に当時の医学部７回生が古畑種基（法医学）教授の文化勲章受章を記念して，クラス全員で昼休みに植樹したもので，２年前に還暦を迎え，６０有余年に渡り東京医科歯科大学の変遷を見守り続け，病院や研究棟が取り壊され建て替えられる環境の中でも，今なお賑わう御茶ノ水の街に向かって凛とした姿で聳え立っています。

そんな本学のシンボルであるメタセコイアも，今年度に予定されている医学部附属病院の新棟新営工事により伐採することが決まり，その雄姿も見納めとなります。

今まで本学の様々な環境変化を見続け、共に成長してきた最後の姿を「編集後記」として残したいと思います。

2019年９月
環境安全管理室事務一同

■掲載ＵＲＬ

http://www.tmd.ac.jp/outline/disclosure/others/index.html

○対象組織	国立大学法人東京医科歯科大学 湯島団地・駿河台団地・国府台団地
○対象期間	2018年4月1日から2019年3月31日
○参考にしたガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
○発行年月	2019年9月
○次回発行予定	2020年9月
○お問合せ先	東京医科歯科大学　職員健康管理・環境安全管理事務室 〒113－8510 東京都文京区湯島１－５－４５ Tel：03－5803－5917 Fax：03－5803－0107 E-mail：kankyo.adm@tmd.ac.jp